



寒いねー。早く春がくるといいね。
— キツネの親子—

あの手この手で考えて、あの手この手で問題解決！



大和市民活動センター[拠点やまと] 第 37 号 2010 年 2 月 20 日発行



絵:「大和のりんごの一年」間山世津子

昨年 11/21(土)～11/23(月・祝)に開催されたドラマティックカンパニーYamato50主催の「わが街やまと～ドラマティックな絵画展～」で選ばれた作品3回シリーズの2回目、間山世津子さんの作品です。

*この表紙の絵は大和市民活動センターのH.P.ではカラーでご覧になれます。

食育活動をしている「食のアトリエ」が、2008 年下鶴間のえんどうりんご園にて、花の観察(4 月)、果実の袋かけ(5 月)、りんごの収穫・試食(10 月)を親子で体験する企画に参加。りんごの成長と育てる人の努力を参加者親子が心と肌で感じとっている様子を表現してみました。(間山)

第5回国際交流フェスティバルに参加します

3月21日(日) 10:00～16:00

(大和駅東側プロムナードにて開催)

市民活動センターもブースにて活動をアピール。

サポーター中心に企画を練っています。

まだまだ参加のチャンスあり。

「センター」のある日ある時

1月 27日 (水) 晴れ

中途失明の方のために点図カレンダーを作っている「点図サークルオーロラ」から、今年の点図カレンダーが届きました。日めくりの点図カレンダーを毎日楽しみにめぐっている人の存在を知りました。たったひとりでも必要な人のために作り続けている活動です。

<送付の際、同封されているご案内>

- ・「第5回国際交流フェスティバル」に参加するサポーター募集のお知らせ
- ・第(29)回連続共育セミナー「“大和市街づくり賞”から“まちづくり”を考えたい」のお知らせ



1/23(土)
実施

第27回は「フィンランドの安心の子育てを伝えたい」

子どもの学力世界一と言われるフィンランド
それは子育て事情に答えがあるのでは？

現地取材から見えた現在のフィンランドを語っていただきました。

お話は子ども環境ライター/編集の小杉皓男さんと北方美穂さん



フィンランドの森の妖精トントウ
トントウはサンタクロースに子どもたちのことを伝える役目をもった妖精です。

安心できる子育てサポート体制
「ネウボラ」…保健所のような施設

妊娠から子育てまでデータが蓄積されていて、いつでもどこでも相談できる実家のお母さんの役割も果たしている。

「エシコウル」…就学前施設

早期教育ではなく小学校に入ったら面白そうだな、と感じさせる体験などができる就学前施設。

「クンミ」…生まれたときに「クンミ」と呼ばれる親代わりを決める

15歳まで親代わりとなって、さまざまな相談にのってくれる。

「教会」…学童保育もしている

朝の学童保育もしているので、子どもが学校に行く前に仕事に出かける母親や父親は、安心して出かけられる。

「学び」…小学校～大学まで学費は無料

国費で学べる。例えば離婚した母親が、自立するための資格を得る勉強も国費で学べる。

「父親の役割」…父親は5時には帰宅

仕事を終えた父親は、家や図書館で子どもに本の読み聞かせをしたりして、家族との時間を大切にしている。

娘さんが結婚してフィンランドで暮しているというお父さんの参加もあって、娘さんの子育ての話も聞かせていただき、よりフィンランドの安心の子育て事情がわかりました。

参加者から子育てについて意見交換がなされ、「学校のために学ぶのではなく、人生のために学ぶもの」という当たり前の言葉が新鮮に響きました。

教育現場では…

- ・先生が子どもをひとりの人間として尊重し、支配下においていない。
- ・父母が先生とよく話し合っていて信頼関係を築いているので、共通認識の中で子どもに接している。
- ・教師に授業の主体的権限が与えられている。
- ・上級生が下級生の面倒をみる。



酷暑のなかを歩き続けた3人の僧

2/13(土)
実施

第28回は「平和の種をまきたい」

核の負の遺産を永遠に閉じるための祈りの行脚

同じ悲劇が繰り返されることのないようにと、広島原爆の火が60年もの間保管されている。その火をすべてが始まった原点に戻し、消し去ることで輪を閉じ、永遠に眠らせるための祈りの行脚の記録。「GATE」

2月13日(土)の試写会に21名が参加。感想の一部を紹介します。

- ★感動しました。私も含めてですが、戦争を知らない子どもたち(小学生や中学生などの)が学校とかで、観る時間があればいいなと思います。核のない平和な世の中にしていかなければならない。原爆のことなどは語り続け、忘れてはいけないことなんだ、と思いました。
- ★住職の〇(マル)の書が全てを物語っていると思った。平和のためにこれをしなくてはならない、ではなく、一人一人が“平和”とは何かを想い、考え、自分のできる”最高”の表現をしていく必要がある。それは強要ではなく、気がついた人からやってあげればいいのだ、と思います。

- ★100個もあれば、地球を死の星にしてしまう核の恐ろしさと、一人の人間としての想い、行動が国境を越えて共鳴していく素晴らしさに希望を感じました。この映画を観てどう行動していくか、考えてみたいと思います。
- ★行脚するこの行動は抗議ではない、祈りなんだ。一步一步が祈りだ。ほんとうに共感しました。怒りや復讐には終りが無い。一人一人の心の平和が世界平和につながる。ただ静かに祈る姿勢に[GATE]が開かれたのだと納得しました。

そして次回の連続共育セミナー第29回は

「“大和市街づくり賞”から“まちづくり”を考えたい」

日時:3月23日(火)14:00~16:00

場所:大和市民活動センター会議室

ゲスト:小川政男さん(笹倉鉄平版画ミュージアム館長)

まちづくりについて語り合います。

2月4日(木)曇りのち晴れ

「夢わかさ連」の知念さんが来館。活動していく上での課題は練習場所の確保、と聞いた。その後老人施設「みなみかぜ」のスタッフが来館。貸出しスペースがあるということがわかり、さっそく知念さんと引き合わせることができた。老人施設が「夢わかさ連」の地元とわかり、知念さんの顔にパッと笑顔が浮かんだ。

協働事業・補助金事業の今

新しい公共を創造する市民活動推進条例に基づいて実践されている協働事業と補助金事業の活動状況を報告します。

協働事業とは、市民、市民団体、事業者と市が役割と負担を明確にしなが、お互いの提案により協力して実施し、社会に貢献する事業のことです。大和市民活動センターも協働事業で運営しています。

いつも
お元気ですね！



鶴西・南

鶴西・北

西鶴間

1丁目公園

プップー♪

発車しま～す！



「乗合いバスの運行事業」 ～地域に新たな交通を～

西鶴間・上草柳地区の自治会、住民が主体となって

取り組んでいる新たな交通創出の取り組み。4月からの運行に向けての試運行に乗車しました。先に乗っていた女性が「バスに乗れるからたくさん買い物ができるんですよ。帰りも乗りますので、よろしく」と言って降りていきました。

車にも自転車にも乗れないお年寄りや妊婦さん、小さいお子さんを連れてお母さんたちにとっては、うれしい乗り合いバス。道路運送法上の登録、許可を要しない運送とするために、運賃は徴収できないので、運行資金の確保などの課題があるが、これを機会に住民の「支え合うまちづくり」の意識が高まることを期待したいです。

鶴間駅

保健福祉
センター前

西鶴間
6丁目

西鶴間
7丁目

南鶴間
自治会館入口

「食のアトリエ」

～親子大和の春野菜もぎとり&クッキング～

2009年5月16日(土)小林利明農場、大和小学校・家庭科室にて実施。大人13名、子ども22名が参加。ミニミニ講座では、栄養士・立岩恵子さんに「大和小学校の給食での地産地消の取り組み」を楽しくわかりやすくお話していただきました。

～大和の秋野菜・親子クッキング&直売所見学～

2009年12月5日(土)林間小学校の家庭科室、鶴間直売所にて実施。大人8名、子ども8名の参加。ミニミニ講座では、教育委員会・保健給食課の星範子さんの「大和市の給食」の話。鶴間直売所では農家の遠藤さんのお話を聞き、「詳しくお話して聞けてよかった」と、参加者からの感想です。

「夢わかさ連」 ～踊って、感動して～

老人ホームのデイサービスに3回行き阿波踊りを披露。高齢者の方達が喜んでくれた。・踊りを披露することで2～3歳の子どもの自信につながっている。子どもたちを一人の人間として接していきたい。子育ての悩みを打ち明けられる場になっている。

「ドラマティックカンパニーYamato50」

～まだまだドラマティックな展開が続きます～

昨年11月21・22・23日の3日間、オークシティーイオンホールにて「ドラマティックな絵画展」を開催。見て、聞いて体感できる初の絵画展に1300人が来場。盛りだくさんの企画を楽しんでいただき、次への展開が生まれています。

・映画「わが街やまと」の上映会。・プラネタリウムの工作教室 ⇒プラネタリウムのパッケージが商品化へ。・及川正道のイラスト教室。・一般参加作品の絵画コンテスト⇒コンテスト入賞者が大和まつりのポスターを制作。・大和市在住の一流アーティスト 及川正道、高野哲也、徳富喜翔の作品展。・写真がしゃべるトークングフォトの展示。・ギャラリーやホールなど大和のアートのスポットを紹介する“アートマップ”を作って展示⇒市の文化芸術連合の見本となる。

オークシティー

市役所

市立病院

上草柳

ロータリー

のいあいバス

おつかれさ～ん♪

またねー！



明日も
よろしくね！



子安
児童館南

「センター」のある日ある時

2月4日(木)曇り

マンションの管理運営理事長をしている早川さんが来館。マンション内の集会室を子どもたちの放課後の居場所として開放しているとのこと。それぞれのマンションの中に学童保育ができれば、働くお母さんたちにとって安心の場となりお年寄りとのコミュニケーションもはかれてグッド アイデア。

第94回 ~ギャラリーが溜まり場で活動の拠点~

2/2(火)<ギャラリーあべ>

若かりし頃、新宿の喫茶店に出入りしていた芸術家たちに触発され、ニューヨークへ行ってヒッピーになり、世界21カ国をまわったという画家の阿部さん。“人生は宝の山”と言い続けて30年。「ギャラリーあべ」では、毎月第3日曜日にお誕生会を開催して、今月で62回目。年齢を超えた交流が続いている。ボランティアの小野さんは、簡単で手間ひまかけない料理を作って裏方で支えています、と話した。曲紹介で、「愛の讃歌」を歌っているエディット・ピアフのエピソードをマイクを飲み込みそうな勢いで語ったので、思わずマイクを遠ざけに席を立ったジョニーさん。お菓子の箱の蓋などに、薄い金や銀紙を貼り、釘でひっかいて絵を描くオイルエッチング画は阿部さんの考案。



オイルエッチング画「なかよし」

コラージュすれば、ゴミはこの世に存在しない。「何かに使える」と思考力を働かせて作品にすることを子どもたちに教えている。

<これからの出演団体>

- 第96回 3/2(火)ワーカーズ・コレクティブ とと・菜・とと
- 第97回 3/16(火)国際交流フェスティバル実行委員会

第95回 ~太陽の暖かさで、春を感じる~

2/16(火)<大和市身体障がい者福祉協会視覚部>



香りを
お届けします。

大和市身体障がい者福祉協会視覚部は昭和51年7月に視覚障がい者とその家族支援者が集まって発足しました。年間の活動内容はいろいろありますが、大和市の消防本部の方に地震のメカニズムや避難する状況などを教わり、勉強になりました。現在はエンジン音が聞こえないハイブリッド車は大変危険なので走行音の体験を行いたいと思い、協力者をさがしています。県の視覚障がい者福祉協会の文化のついで「朗読劇」を行った話になると、高橋さんが身振り手振りをまじえて楽しそうに説明しました。

「朝ラジ☆ホットスクランブル」は再放送があります。
当日の 15:00~16:00 22:00~23:00

ラジオを聴いたら感想をFAX、メールで[FMやまと]へ。
FAX :046-265-2777
E-mail :morning@fmyamato.co.jp

★やまとっこ☆みつた★やまとっこ☆みつた★やまとっこ☆みつた★
2月10日(水)曇りのち雨
FM やまと「朝ラジホットスクランブル」に寄せられたラジオネーム「みどり」さんのメール。何か社会に役立ちたいと思い、市民活動センターに登録しました。まずは、高校生の絵を南林間二条通り「カットサロンみどり」の店内に展示します。

2/3(水)雪。3日後に「つるま自然の森」の手入れがあった。雪は既になし。来る春のために森の土はごくごく雪どけの水を飲んだのだ。(小杉皓男)

娘に愛用のウクレレを壊された。しばらく落ち込んだが、これを機にワンランク上のウクレレを購入。音色がずっとよい。かえって嬉しい。(村山真弓)

冬季五輪開催中。環境問題に本腰、環境コンサルタント会社と公式に契約、夏季ロンドン大会で参考にする「バンクーバー方式」の成果を期す。(浅見正明)

10人に一人はうつだと言われている。生きづらい今の時代こそ市民の力が輝きます。市民の活動を応援し、力を集めていきたいです。(関根孝子)

今月は甥が生まれて嬉しく、「叔母ばか」となりました。何をやっても可愛く、なんだかおもしろい…赤ちゃんは最強の存在?(中山みゆき)

熱血編集後記



「梅にウグイス」は
やはり絵になります。

10年ぶりにタイに行きました。スコータイ~アユタヤ王朝の”違い”を女生徒8人が踊って説明してくれました。全く同じに見えました。(望月則男)

如月は初釜も終わり、本格的な「茶事」が始まる。茶事は、茶の湯の正式なもてなしと、主客の心の交わり、心の修養である。(松村襄)

市民活動センター横のこぶしの木が隙間なく蕾をつけ、春の出番をまっています。そんなこぶしの木を仰ぎながら「春よ来い、早く来い」つい口ずさんでしまいます。(櫻井貞代)

♪春は名のみ風の寒さや~
学校では唱歌や子守唄を教えなくなっているとか。美しい詩とメロディが歌い継がれなくなっているのは、何とも残念。(石川美恵子)

今号の用紙は鶯色、ホ~ホケキョのさえずりが待ち遠しいです。



[拠点やまと]が制作発行する
大和市民活動センターの広報紙・月刊「あの手 この手」。

2月20日付け第37号をお届けします。

▲「中央林間博覧強記加留多」。『ぬ』の文字札と絵札

「カルタの『ぬ』がなかなか出なくて弱っていました。で、これどうでしょうと、持って来てくれたのが同じ大和商工会議所中央林間地域会員交流会メンバーの山中元さんでした」と話されるのは「中央林間博覧強記加留多」を制作された市川メガネ店の市川秀雄さん。その『ぬ』の文字札は「ぬ 射千玉（ぬばたま）の夕月懸（か）かる柿の木山」。困っていた『ぬ』のおかげで現在の中央林間エリアにあった古い地名「柿の木山」が俄（にわ）かに復活したということがあります。

さて、

東急ストア中央林間店の裏手の通り沿いに、つい見過ごしてしまうようなごくありふれた小さな公園があります。公園の名前は柿の木通り公園。けれども、柿の木が1本もない公園。なぜ柿の木という名称の公園なのか、この辺一体を昔「柿の木山」と言っていた名残りがこの公園の名にかろうじて残っていたということが市川さんの調査でわかった。ならば、この公園に柿の木を植えようではないかと、「交流会」メンバーは動く。

で、2月8日（月）、柿の木植樹式典がありました。

会場はもちろんこの柿の木通り公園。大和市民活動センターも招かれて参加しました。式典のなかで、「柿の木」の経緯が話されました。そして、中央林間大好き人間の集まりである「交流会」はこの街を元気にしていくさまざまな試みを仕掛けたいと市川さんの挨拶があり、乾杯の音頭は欧風台所ラ・パレットの真弓敦史さん。「去年企画し、好評の「中央林間シチュー」で使っているのがこの乾杯のYAMATO WINE。原料は山梨勝沼と長野中信地区の

ブドウです」との前置きがあって青空の下で「乾杯」。今日のおつまみはというと、これが柿の種。なるほど。

式典を終え、解散のあと、ちょうど下校時の小学生が植樹したばかりの公園に来て、根元をならしていた植木屋さんに質問していた。「これ、柿の木だ。この秋に柿になるかもしれない。今、葉っぱはないけれど、春になると葉が出て、花が咲いて青い小さな柿の実ができるんだ。柿が赤くなると医者が青くなるって、わかるか」と、おじさん。子どもたちに即席実物教育をしていた。

柿の木を植える。

これ、公園のシンボルになるだけではない、さまざまな方向に波及していく「街づくりアクション」なのだと思う。

2010/02/20 [拠点やまと]広報係・小杉 皓男[記]

